

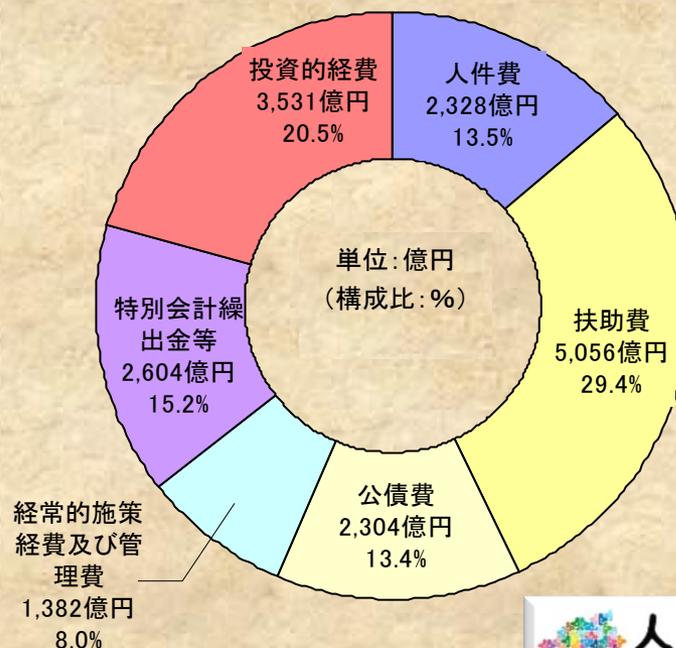
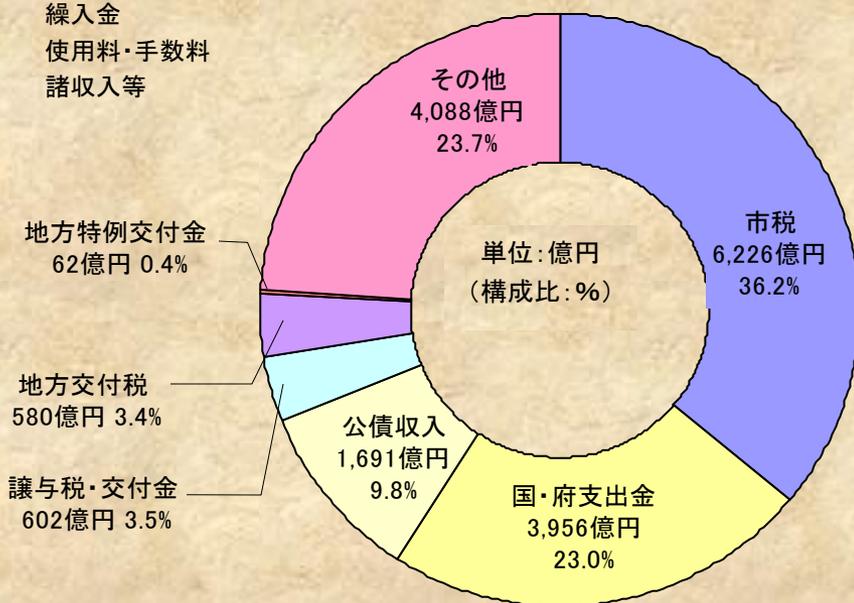
# 予算規模（一般会計）

- 平成23年度一般会計(当初)の予算規模は、1兆7,205億円となっています。
- 職員数の削減や給与カットの継続等により人件費を縮減するとともに、生活保護費については適正化の取り組みを強力に推進し、施策の選択と集中による事業の重点化を行っています。

(歳入) 1兆7,205億円

(歳出) 1兆7,205億円

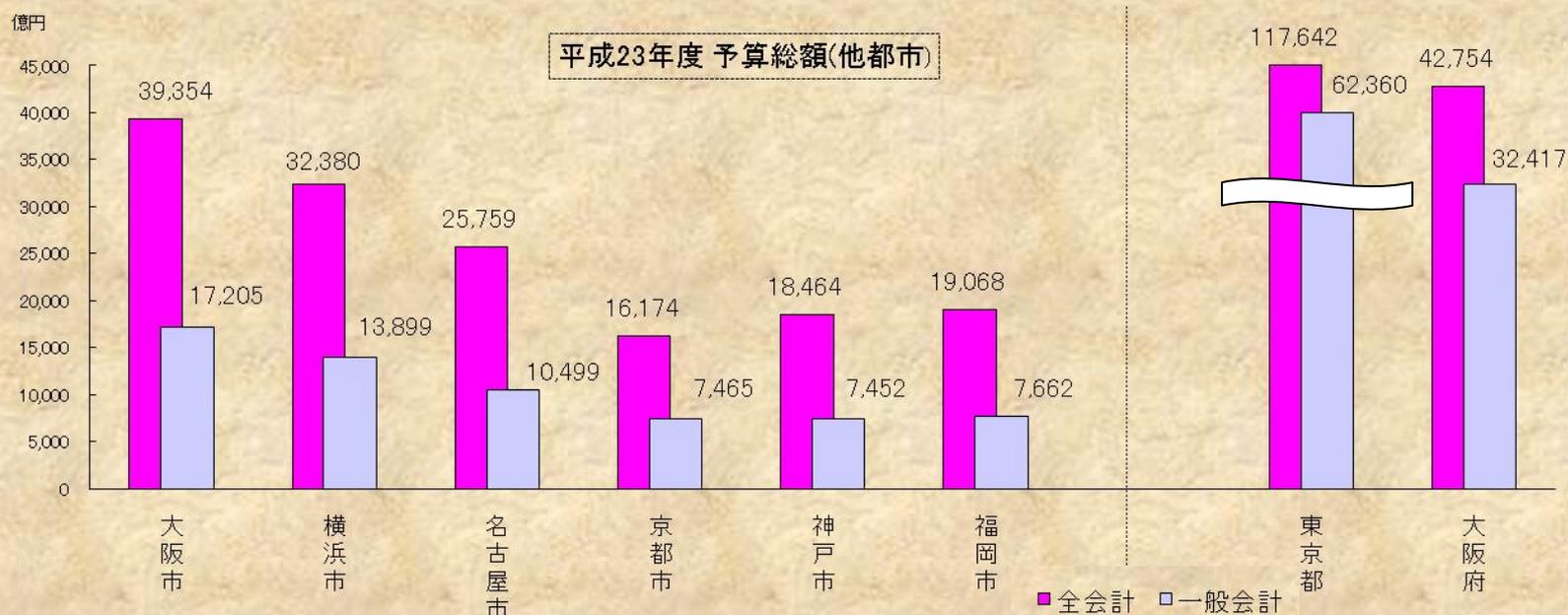
(※)その他は、  
繰入金  
使用料・手数料  
諸収入等



## Ⅱ 財政の現状

# 予算規模(他都市比較)

- ▶ 大阪市の平成23年度の予算規模は、一般会計、全会計とも政令市の中で最も大きくなっています。



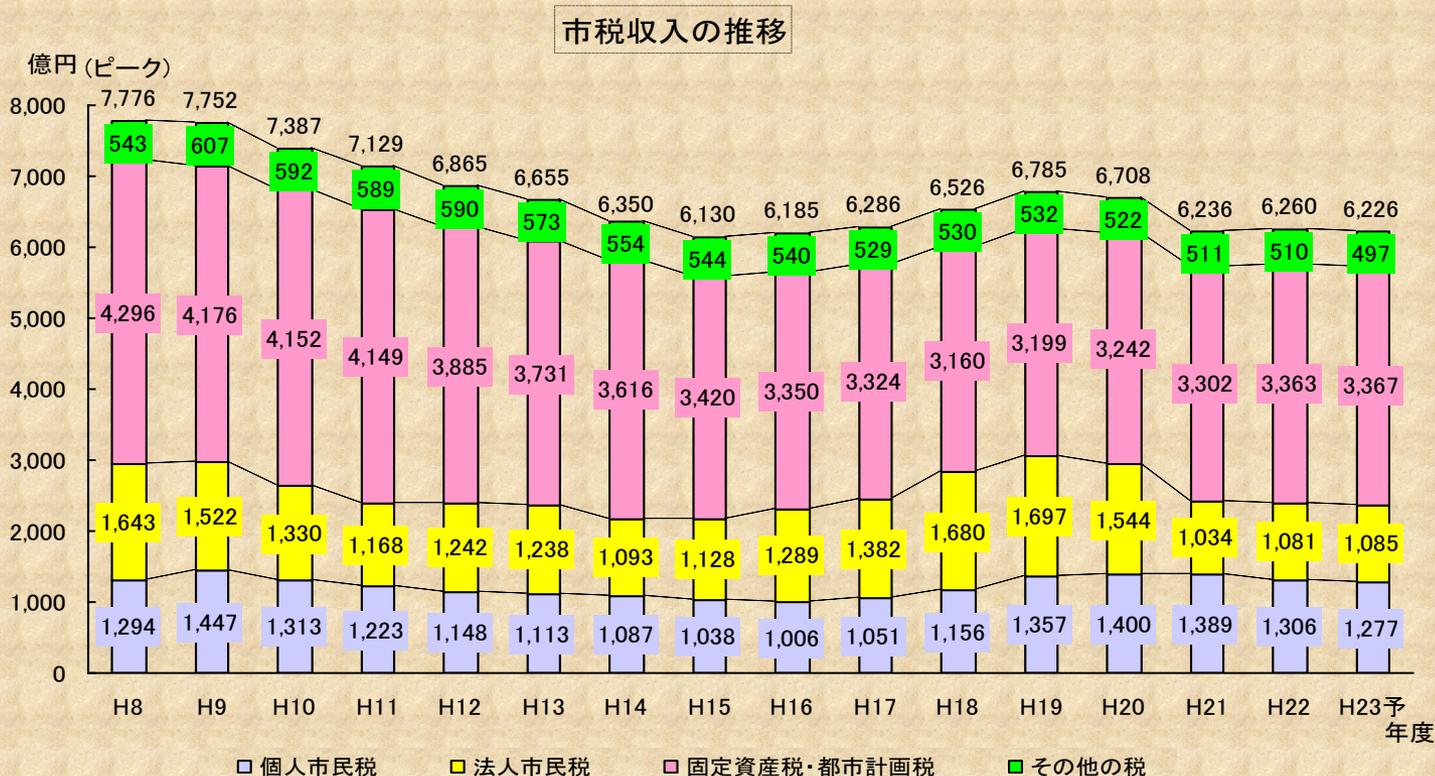
## 大阪市の会計(全会計)...

一般会計と20の特別会計からなっています。

特別会計には、高速鉄道事業会計や水道事業会計、下水道事業会計などがあります。

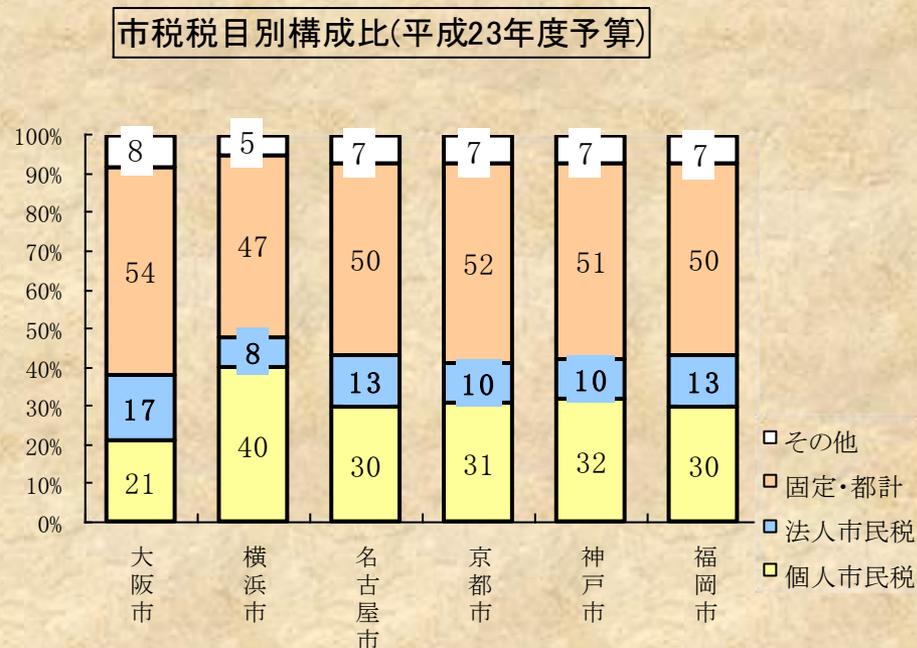
# 市税収入の推移

- ▶ 最も基本的な収入である市税収入は、企業収益の改善による法人市民税の増収が見込まれるものの、平成23年度予算における市税総額は6,226億円と、ピークである平成8年度と比較するとまだまだ低い水準となっています。



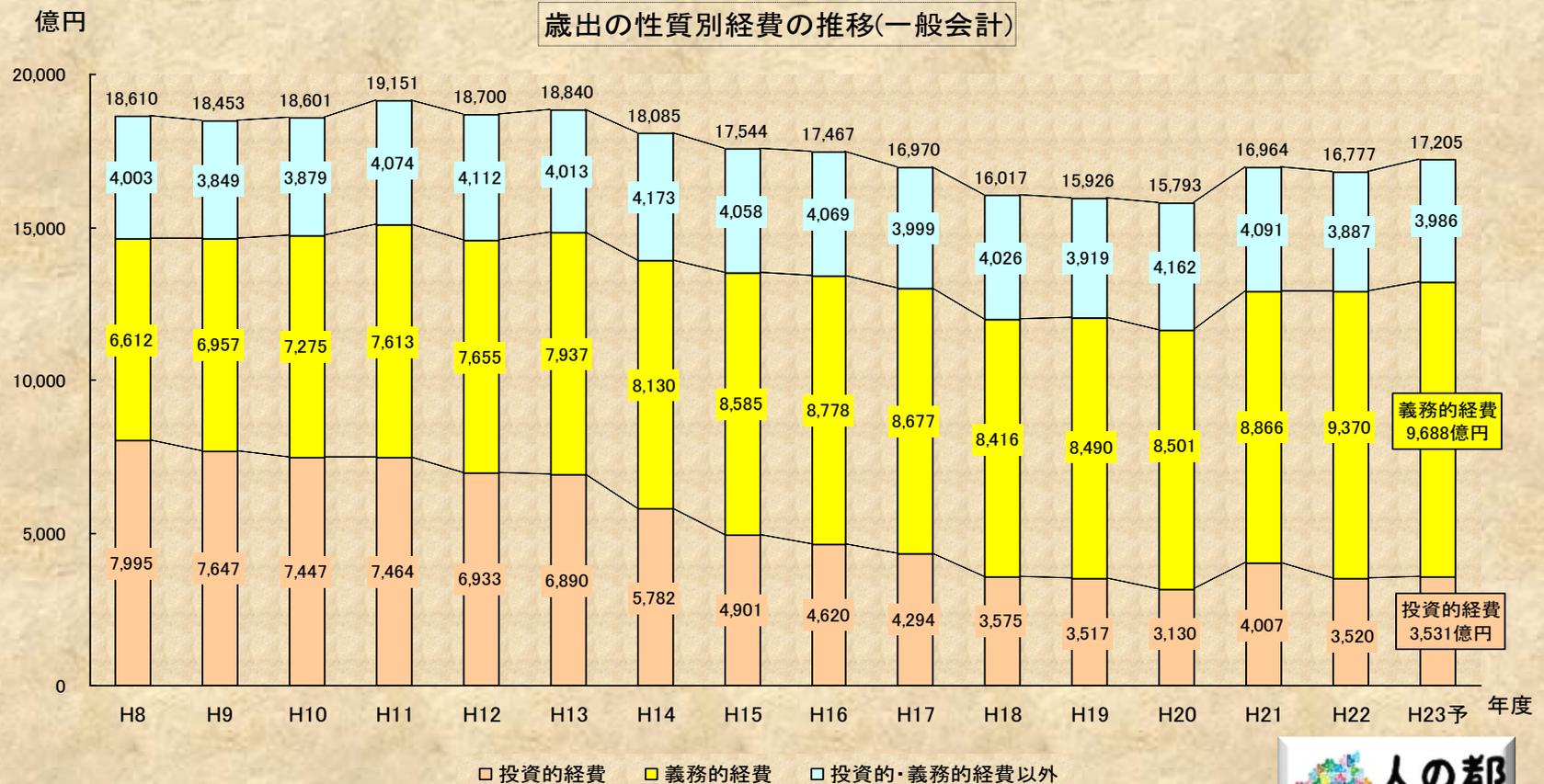
# 市税総額と税目別構成比

- ▶ 市税総額は6,226億円で、政令市の中で2番目の規模となっています。
- ▶ 税目別構成比は、大阪市の個人市民税の市税総額に占める割合は、政令市の中で最も低く、法人市民税の市税総額に占める割合は最も高くなっています。



# 歳出構造の推移

- ▶ 平成23年度予算については、人件費や経常的施策経費等の抑制を図ったものの、生活保護費などの扶助費が増加したことなどにより歳出規模の水準はほぼ横ばいとなっています。



## Ⅱ 財政の現状

# 義務的経費の推移

- 義務的経費の内訳では、扶助費の割合が年々高くなっています。
- 一方で、人件費は抑制基調、職員数も平成10年度から減少を続けています。

